

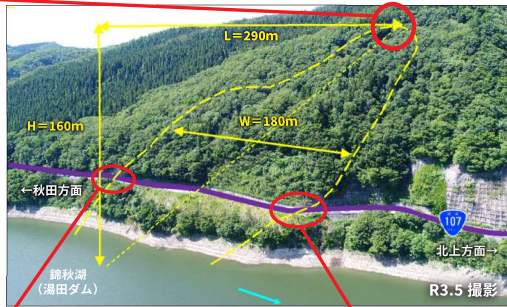
■地すべり現象について

地すべり現象とは、斜面の一部が地下水等に起因してすべる現象、またはこれに伴って移動する現象です。

今回の地すべりは、令和2年度冬の大雪が溶け、その後、4月中旬にまとまった雨が降り、さらに、5月1日に発生した地震の影響で変状が発生したものと推測されます。



R3.6 撮影
上部では2m近くの段差が発生



R3.5 撮影

地すべり現象により約120万㎡の土塊が錦秋湖方向へ移動



R3.10 撮影
道路の沈下と擁壁の転倒が発生



R3.6 撮影
道路部では約30cmの段差が発生



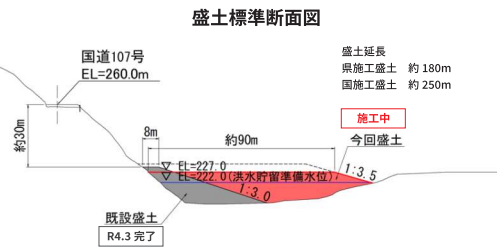
R4.7 撮影

一般国道107号大石地区道路災害復旧事業

■応急工事（盛土）

令和3年秋から、地すべりの動きを抑えるための工事に着手しました。令和4年3月には約14万㎡の盛土が完了し、地すべり変状に対する一定の安全性が確保されました。

また、現在は、国土交通省により、湯田ダムの水位が高い場合に地すべりが発生しても、対岸の耳取地区に波の影響が及ばないようにするための対策工事（土塊の突入する川を浅くすることで発生する波の大きさを抑制する工事）が進められています。



盛土標準断面図

盛土延長 約180m
県施工盛土 約180m
国施工盛土 約250m

施工中
今回盛土

盛土の施工状況



R4.7 撮影

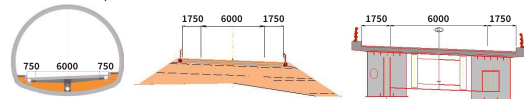
■国道の災害復旧工事

国道の災害復旧は、大規模な地すべり箇所を迂回するため、現道の北側にトンネルや橋梁を新設する、延長約1.8kmのバイパス計画としており、早期の完成を目指し、順次、工事に着手しています。

トンネル延長 約1,470m

道路区間延長 約270m

橋梁延長 約70m



R4.7 発行



仮設道路施工状況 R4.7 撮影



発行：株式会社小田島組・たかしん興業株式会社特定共同企業体（仮設道路工事受注者）

発注者：岩手県

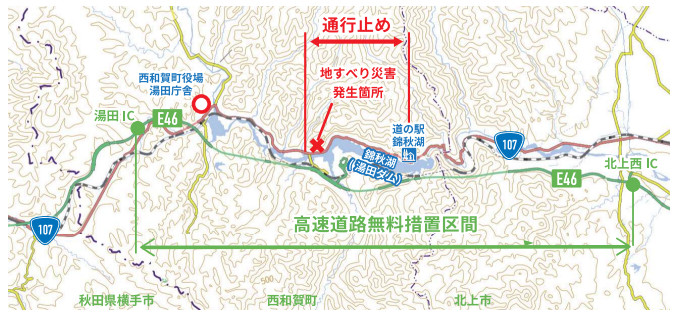
一般国道107号大石地区道路災害復旧事業の概要

- ▶一般国道107号西和賀町大石地区において、令和3年5月1日に発生した地震後、のり面に崩壊の兆候が確認されたことから全面通行止めとしました。
- ▶現地調査の結果、約120万㎡の土塊が移動する大規模地すべりが確認されたため、この動きを抑えるための応急工事（盛土）を県施工で令和4年3月に完了させており、その後、国土交通省による更なる対策工事（土塊の突入する川を浅くすることで発生する波の大きさを抑制する工事）が進められているところです。
- ▶現在は、今年の積雪期前の通行確保に向けた仮設道路の工事を鋭意進めています。また、トンネルや橋梁の新設による国道の災害復旧工事も、早期完成を目指し、順次、現地に着手しています。

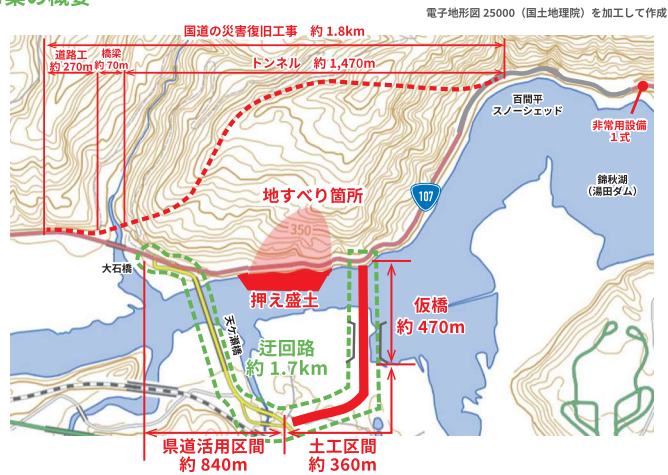
位置図（広域）



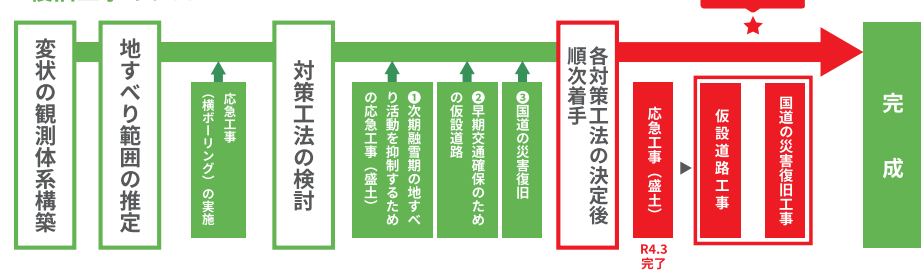
位置図（北上西IC～湯田IC間）



災害復旧事業の概要



復旧工事のフロー

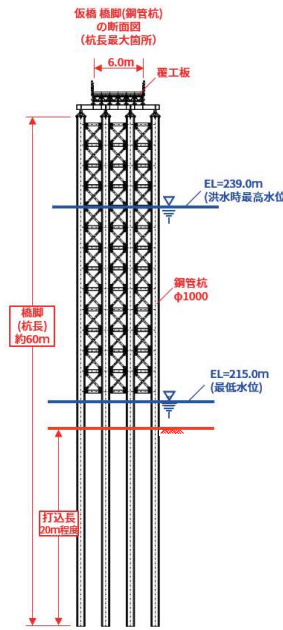


仮設道路工事の概要

地すべり災害による通行止めとなっている国道107号大石地区を迂回するため、現在、約470mの仮橋設置を始めとした仮設道路の工事を進めています。

仮橋は、錦秋湖（湯田ダム）を横断することから、橋脚（鋼管杭）の総本数108本、1本当たりの長さは最大で約60mとなる、極めて規模の大きな橋梁となっています。

この仮設道路と県道の一部を活用し、約1.7kmの区間を国道の迂回路として、今年の積雪期前に供用するよう鋭意工事を進めています。

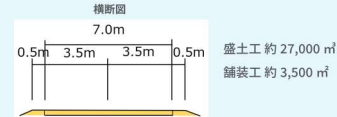


仮設道路施工区間

仮橋区間 約470m



道路区間 約360m



(参考) 県道活用区間

天ヶ瀬橋 約340m



道路区間 約500m



施工状況



水上での鋼管杭打設



地上での鋼管杭打設



盛土状況

